

障害児家庭における相互作用の変貌に関する研究

巷野 悟郎（都立府中病院）

乳幼児健診を主軸とした、障害児の早期発見・早期治療のシステム化は、急速に全国的な拡がりをみせている。早期発見に主眼をおくあまりに、わずかな *normal variation* をも見逃さない体制作りがすすめられている。そういう風潮の中では、健康診査が正常・異常の単なる振り分けの場となり、乳幼児をもつ家族に与える精神的不安は、いまや看過できない問題となってきた。

我々は、府中保健所において、乳幼児健診後の経過観察クリニックに呼びだされた家族に対して直接面談法によりアンケート調査を実施中である。これにより、健診が乳幼児をもつ家族内の相互作用に与える影響を知ることができ、健康診査の今後のあり方をも示唆することになる。